

こども食堂をどう評価するか 地域の絆を育むセーフティーネット



村田 信之



議員 市内各地区で取り組まれているこども食堂の活動を、市はどのように評価しているのか。

保健福祉部長 市内で実施されているこども食堂は、単なる食事の提供の場ではなく、子どもたちが安心して過ごせる居場所であり、地域住民との交流を通じて顔の見える関係を育む場であると認識している。また、地域住民や高齢者の活躍の場となるなど、多世代交流の拠点としても重要な役割を担っている。

こども食堂の活動が広がることで、豊かな食体験や健康づくり、安心できる居場所の提供、子育て世帯への支援、さらには世代を超えた地域コミュニティの活性化につながるものと期待している。



みんなが力を合わせて綱引き
平田「にこにこ食堂」にて

現在、市内各地区で実施されているこども食堂は、それぞれの地域の特色を生かしながら、栄養バランスに配慮した食事を無料または低額で提供している。さらに、ゲームや運動、歌や踊りなどを取り入れ、子どもとその保護者、高齢者まで、すべての参加者が楽しめる多世代交流の場となっている。

こうした地域の活性化に寄与するだけでなく、この活動によって構築された地域住民の関係性が地域のセーフティーネットとして機能するなど、大きな意義を持つ取組であると高く評価している。

不登校生の給食費無償化への対応は 給食費相当額の支援を行う方向で検討



深澤 秋子



議員 文部科学省の給食費負担軽減交付金は、「在籍児童数」に基づいて支給されるため不登校の児童生徒も対象であるとしているが、当市の対応は。

教育部長 現在、県内自治体の取組状況や制度設計等について情報収集を行っている。当市としては、不登校などの事情により給食停止の意思表示があり恒常的に給食を喫食していない児童生徒の保護者に対し、給食費相当額の支援を行う方向で検討を進めている。

議員 クマの出没が6月に入って連日報告され、その中には釜石中学校付近や上中島バス停付近など児童生徒が登下校する通学路になっている場所も含まれている。登下校の安全確保は。

教育部長 市教育委員会作成「クマ出没対応マニュアル」のもと安全指導等を継続的に行い、児童生徒の安全確保に取り組んでいる。また今年度の新たな取組として、スクールバスの弾力的な運用により安全確保を図ることを念頭に、空席がある場合に、遠方から徒歩で通学している児童生徒を優先させながら、可能な限りスクールバスに乗り込めるよう7月1日からの運用目指し準備を進めている。さらに児童生徒へのクマ鈴の配布も検討しており、小学3年生までの配布準備を進めている。今後、中学3年生までの配布についても検討している。



教育委員会